

平成26年第1回吉田町議会定例会 一般質問通告

1	議席番号 1 2 番	藤田 和寿 議員	開始予定時刻 3月13日 午前9時
<p>【町が目指す「豊かで勢いのある町」の将来像について】</p> <p>26年第1回定例会の施政方針の中で、町長が目指す吉田町は「豊かで勢いのある町」であると述べられています。</p> <p>そして「豊かさ」とは、この町の企業が安心して生産活動を営み、多くの雇用の場が確保されていることであり、「勢い」とは、人口が増加し続けることであるとお考えを示されました。</p> <p>町は、「人と人、心やすらぎ、健康で住みやすいまち吉田町」を将来都市像として描いた第4次総合計画を進めており、その実現に向け「津波防災まちづくり」を最優先の施策として取り組まれています。</p> <p>第1ステップの「町民の皆さまの命を守る対策」をスピード感を持って達成され、第2ステップの「町民の皆さまの財産、企業の皆さまの生産活動を守る対策」へ向け今後も本格的に取り組まれます。</p> <p>町長は、『先人が築き、我々が受け継いだ吉田町の発展を持続的なものとし、後人に誇りを持って渡すことができるよう、町民の皆さまと手を携えて全力でもって走り抜きたい』と後期基本計画策定時に思いを述べられています。</p> <p>3. 11を受け、津波防災対策を最重点課題に据えた「安全・安心なまちづくり」・「津波防災まちづくり」と3年が過ぎ、今後も事業を強力に実行し、更なる施策で総合計画の実現を期待しています。</p> <p>そこで、新たに示された町長が目指す「豊かで勢いのある町」の将来像について、以下お考えを伺います。</p> <ol style="list-style-type: none">1 「豊かで勢いのある町」とは、今の吉田町と比べ、どのような姿か。2 「豊かで勢いのある町」は「人と人、心やすらぎ、健康で住みやすいまち」の実現に必要な町の姿か。3 26年度から第5次総合計画の策定事業が始まるが、策定趣旨と策定プロセスは。			

2	議席番号 4 番	平野 積 議員	開始予定時刻 3月13日 午前10時
<p>【吉田町の教育方針について】</p> <p>昨年12月定例会の一般質問において、学力向上およびちいさな理科館について質問しました。今回は、前回答弁いただいたことに関する進捗状況について質問いたします。</p> <p>加えて、平成26年度に計画されている、児童生徒の確かな学力向上を目的として静岡大学村山教授の指導のもと実施する「吉田町ラーニングプラン」についても質問いたします。</p>			

- 1 児童生徒学力向上委員会について
 - (1) 昨年11月に発足いたしました児童生徒学力向上委員会が出した学力向上に関する吉田町の教育課題は何でしょうか。
 - (2) その対策としての実施計画をご教示ください。

- 2 吉田町ラーニングプランについて
 - (1) 村山教授への依頼事項を具体的にご教示ください。
 - (2) 町長が施政方針で何度となく述べられた「確かな学力向上」とは、いつまでに何をどの程度向上させることでしょうか。
 - (3) 前述の児童生徒学力向上委員会と本ラーニングプランとの関係をご教示ください。

- 3 ちいさな理科館について
 - (1) 講座改革はちいさな理科館の現状や課題を明確にして取り組むとの答弁および館内説明強化に対して職員の教育を進めるとの答弁をいただきましたが、その進捗状況をご教示ください。

3	議席番号 1 番	増田 剛士 議員	開始予定時刻 3月13日 午前11時
<p>【観光事業と町のにぎわいづくりによる町の活性化策について】</p> <p>当町では、観光事業というよりも地域振興策としてのイベント事業が行われ日常的な観光事業がほとんど無い状況であります。</p> <p>また、交通手段、道路網の改善等により当町が通過の町となる懸念があります。</p> <p>町のにぎわいを創出し、「行ってみたい、ちょっと寄ってみたい」と思われる町づくりが町の活性化に繋がると考えるため以下質問いたします。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 町のH.Pの観光マップを見ると、寺・神社が多数掲載されているが、これらを観光資源として生かしていくのか。 2 吉田町の特産品として「うなぎ」「レタス」がある。これらは、町内での消費が少ない。特にレタスは、町内でほとんど流通していないことが現状である。 町内で生産され、町内で消費されることが、特産品として観光客へのPRに繋がり町のにぎわい創出となると考える。町の見解は。 3 吉田町観光協会と吉田町魅力創造委員会のあり方について町の方針は。 			

【再生可能エネルギー推進のために、町で取り組む施策について】

2011年3月11日の東日本大震災で地震・津波被害を受け、3年が経過しましたが、被災された人たちは、今でも不自由な避難生活を送っています。

なかでも福島第一原発事故に被災された方たちは、住みなれた土地と家を失ったうえ、放射能災害という先の見えない不安をかかえて生活しています。

吉田町は、浜岡原発から20キロ圏内に位置し、福島第一原発事故の状況を見ると、南相馬市が被害に会われた方角と同じで、南相馬市のような被害が想定できます。

吉田町民の多くは、浜岡原発の再稼働に反対しています。

しかし、中部電力は、2月14日に安全審査を申請し、着々と再稼働へ向けて準備をしています。

福島原発事故を教訓にすれば、東海地震、南海トラフ巨大地震が想定されている地域の浜岡原発は危険すぎます。

再稼働は、認めることはできません。

私は、電力は原発に頼らず、太陽光や水力、風力など自然再生エネルギーを生かしたエネルギー政策にするべきだと考えます。

町の計画にも地球温暖化防止対策として資源エネルギーの有効利用とし「太陽光や風力・天然ガスなどの身近な自然エネルギーの導入・利用を促進します」と施策の方向を明記しています。

まちづくりアンケートでは、38.7%の方が「太陽熱や風力など未利用エネルギーの有効活用」が必要だと答えています。

エネルギー政策は国策ですが、町として先進地、先進国を参考に計画を立て、出来ることから取り組むべきと考えます。

以下、質問します。

- 1 浜岡原発の再稼働について、町長は反対と新聞報道されているが、今後、中電が再稼働申請した場合の考えは。
- 2 いずれ、石油、石炭などの化石エネルギーは少なくなり、燃料費が高騰し、電気代が高くなる時代がくると考えられる。風力や小水力など推進して再生可能エネルギーを活用するために補助制度は考えられないか。
- 3 町は、現在太陽光発電の補助金を2万円出し進めている。町内に太陽光発電を設置している戸数はどのくらいか。他市では補助金を増やし、設置戸数を増やしている自治体がある。町も補助金を増やす考えはないか。
- 4 エネルギー地産地消を自治体として取り組んでいる市町にならない、吉田町として、今後取り組む考えはないか。

5	議席番号 3 番 山内 均 議員	開始予定時刻 3月14日 午前9時
<p>【防災における、行政の役割と自助、共助、公助の繋がりについて】</p> <p>地震・津波、台風、豪雨等、災害は常に人命を脅かし続けてきた。その脅威から命を守るためには、災害を学び防災のための訓練を行い備えなければならない。</p> <p>自分が住んで居る地域ではどのような被害が想定されるか。どうすれば被害が出ないように出来るか、最小限に抑えられるか。</p> <p>どうすればそこから逃れるか。どうすれば困らなくて済むか、などの意識をもった訓練しか自分を守れない。</p> <p>それでも被害を受けた人がいれば、隣人同士が助け合わなければならない。そのためには、何をすればいいのか、どうしたらいいのかを考えた訓練をし、日常の中に取り入れることが訓練の継続になり知恵となると考える。</p> <p>現在の訓練は十分とは言えない。訓練は行政が準備してくれると思っている人達が多いのではないだろうか。</p> <p>また、消防士や被災者等、経験と知識を持った集団を組織化し独立させ、防災から初動・公助までを主導できるような構成を考えるべきである。</p> <p>施政方針では、「津波防災まちづくり事業」が進み、避難タワーが15基整う。避難されるタワーとその付近の地形を理解していただきたい、とある。なにより避難路の確認である。</p> <p>図上訓練で危険箇所を検索し、タウンウォッチングをして潜む危険を察知しておくことが要求される。</p> <p>そこで質問をします。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 防災に対して、行政のできることで、できないことは明確になっているのか。 2 防災の意識を持つためには何が必要と考えるか。そのために、何をしようとしているのか。 3 消防士や被災者等、経験と知識を持った独立した組織を作れないか。 4 「ジュニア防災士」に何を期待するのか。防災士との関係はどう考えるのか。 5 全町民に対し、災害対応ゲーム「クロスロード」や図上訓練・タウンウォッチング等を実施する考えを持ちませんか。 		

【地域の子育て家庭への支援策について】

町長は新年度施政方針の中で、「豊かで勢いのある町」を目指していると力強く述べられました。

少子化対策は今や国策のみならず、地方自治体においても独自に展開されており、子育て世代は「子育てするなら〇〇で」と居住地を選ぶ傾向があり、また関心も高い。人口減少社会において、若い世代と子どもの定住は、町の活力、勢いにつながるものと私も確信する。

さて、現在わかば保育園内で行われている地域子育て支援拠点事業は、親子が気軽に集える場所、特に乳幼児期の子どもの家庭内以外の居場所として、利用者から高い支持を得ている。

また、移動地域子育て支援拠点事業も、小さな子どもを連れて出かけやすいと特に地域の利用者に好評である。

そこで、親の就労に関わらず、子育て家庭を地域で支援する取り組みを伺う。

- 1 あやめ保育園が廃園となるが、当該地域における移動子育て支援拠点事業はどうなるのか。
- 2 わかば保育園を利用して実施している子育て支援拠点事業は。
- 3 今後の子育て支援拠点事業の利用促進策は。
- 4 子育て相談員配置の背景と効果は。

【政策観光への新たな取り組みについて】

本年3月、『津波避難タワーの標準仕様設計基準』に基づいて建設された全国初となる津波避難タワー15基が完成する。

町内南部を自動車で走ると、次々と強固な津波避難タワーが現れ、驚きといざというときの『安心』を実感する。

本事業は、全国から高い関心が寄せられており、実際に本年度2月末時点で、約40団体、550名の方々がわが町の防災への取り組みや津波避難タワーを視察されたとの報告を町長からいただいた。

国内外を問わず、津波防災まちづくりの関心は高いことから、今後において、さらに町内を訪れる視察客は増えるのではないかと。

一方で、「町内を訪れる観光客は、食事やお土産、宿泊は町外で。」と聞くことが多い。

そこで、津波避難タワーをはじめとする津波防災まちづくりを『政策観光』と位置付け、『海辺のまちに安心を』のロゴマークをつくるなどして、視察に訪れるお客様が滞在できるよう、町内産業団体や事業所などと協力し取り組む考えはないか伺う。

7	議席番号 5 番 三輪 正邦 議員	開始予定時刻 3月14日 午前11時
<p>【あやめ保育園及びすみれ保育園の跡地の利活用について】</p> <p>さくら保育園に統合されたあやめ保育園は、子育て支援センターとして月4回活用されて、今日まできました。</p> <p>平成26年3月末日をもって廃園となり、その事業はわかば保育園に受け継がれ、老朽化のため解体される運命にあります。</p> <p>すみれ保育園については、新しいすみれ保育園としてスタートします。あやめ保育園及びすみれ保育園の跡地は、地域の人達が注目しています。次の点についてお伺いします。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 行政においては、あやめ保育園及びすみれ保育園の跡地の利活用計画はありますか。 2 両園の跡地利用について、地域から具体的な要望があれば考える余地がありますか。 3 さくら保育園の跡地は交通の便もよく、消防団第1分団の詰所として活用され、地域住民に安心と安全を提供されました。 あやめ保育園の跡地は、グラウンドゴルフ場として地域住民のふれあう場、健康づくりの場として整備活用する考えはありますか。 		